トレーニングの修了生

アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダ、シエラレオネで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!

世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました!
左のQRコードからアクセスしてみて!
http://peace-winds.org/

タウトクでは毎号、アフリカの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク3月号の販売部数

5,233部×3円=15,699円

を支援金としてPWJを通じアフリカの国内避難民・難民支援事業に送りました。

peace winds JAPAN

タウトク medicomm inc
月刊タウン情報トクシマ
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

ケニア ダダーブの若者 生計手段多様化に向けての支援

ピースウィンズ・ジャパン(以下PWJ)は、ケニア北東部ソマリア国境にあるダダーブ難民キャンプにて、2012年から難民への住宅支援を行っています。2017年2月からは、キャンプ周辺に居住するケニア人の若者層(20代〜30代前半)を対象に、建設用ブロックの製造技術トレーニング事業を開始しました。ダダーブでの産業は牧畜に限定されていますが、干ばつによる家畜数の減少、乳幼児死亡率の低下、さらに子沢山を奨励する価値観によって人口増加となり、牧畜のみに頼る生活にも限界がみえ、生計手段を多様化する必要が求められています。私たちが今回対象にしたのは、授業料が払えず高等学校へ進学ができなかった若者や、干ばつで家畜を失った若者たちで、彼らはダダーブの町をぶらぶらして一日を過ごすことが多いといいます。

私たちが訓練したのはISSB(Interlocking Stabilized Soil Block)という、凹凸のあるブロックの製造技術で、凹凸を用いてブロックを積み上げるため、セメント使用量を抑え、安価にブロックを製造できます。

完成したISSBブロック

さらに、ダダーブでは原料となる赤土に恵まれていることも大きな利点です。去年からのトレーニングでは192名が参加し、彼らが製造した約5,000個のブロックを用いて、地元の女子高等学校の教室、キッチンを建設できました。

訓練生のISSBブロックを使って建設された女子高等学校の教室

2018年3月12日に女子高で開催されたトレーニングの修了式では、地元リーダーから「ISSB!」「日本からの支援に感謝」という言葉が連呼されましたが、ここからが正念場だと感じています。その理由は、トレーニングを提供し建物を建てて終わりだと、若者の生計手段の多様化という目的を達成したことにはならないからです。修了生からも「トレーニングを受けてもその後につながらないと、また家に戻るだけ」という声も聞かれます。彼らのモティベーションを保つためにも、成功例を示すことが喫緊の課題です。

このISSB製造技術に加え、地元NGOによる5日間のビジネスコースも提供しました。この結果、12人の訓練生がISSB製造を行うビジネスグループを作り、PWJに事業提案書を提出してきました。彼らが自分たちでビジネスを展開していけるまで、私たちが支援を続け成功例を示すことで、ISSBに興味を持ち追随するグループを期待しています。

もともとソマリア系の人たちは、幅広いネットワークを生かしビジネスに長けていることで知られています。女子訓練生の一人は、トレーニング時に支給された交通費と昼食代1日700ケニアシリング(約740円)を貯金し、自分で小さな喫茶店を始めました。この女子訓練生のように、失業中の若者たちに何かビジネスを起こすアイデアと、自分なりに生計手段を多様化していく例がダダーブのあちこちから聞こえるような、そのきっかけを提供できればと私たちは強く思います。これからも今まで同様難民への住宅支援とともに、地元の若者への支援も引き続き行っていきます。

ケニア担当　谷本明美

ISSBブロックの製造トレーニング

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。